

# 明治期のレトロ野球盤

今年は、日本に野球が伝えられてから150年の節目の年です。

今回の展示では、明治40年(1907年)に東京博報堂から発売された「卓上野球」という野球盤を紹介します。このレトロな野球盤から、明治時代後期における、野球人気の高まりの一端を垣間見てみます。

## 1. 明治40年(1907年)に東京博報堂から発売された「卓上野球」

「卓上野球盤」(堀江静子家文書 313)

この野球盤の発売元は東京博報堂で、校閲者は安部磯雄(早稲田大学野球部初代部長、発売時は早稲田大学体育部長)です。守備側と攻撃側が、それぞれ手持ちのカードを出し合いながらゲームを進めます。

盤面の鮮やかな緑色のフィールドがとても印象的です。赤色と白色のチームに分かれており、その風貌からアメリカの選手のように見えます。全ての選手の顔が描き分けられていますので、モデルとなった実在の選手がいたのかもしれませんが。

残念ながら、全てのカードは揃っておらず、展示している選手のカード18枚(1枚欠)のほか、球2枚、打者専用カード12枚、投手専用カード8枚、走者専用カード6枚、各野手併用カード6枚、説明書があったようです。定価は20銭。こうした野球ゲームの誕生からも、当時の野球人気の高まりの一端を垣間見ることができます。



## 2. 白色チームの選手肖像カード

白色チームの選手肖像カードです。ポジションごとに選手の顔が描き分けられています。モデルとなった実在の選手がいたのでしょうか。



## 3. 明治時代後期の野球のユニフォーム姿

「亀井茲常 野球のユニフォーム姿」(松元淳収集文書 646)



明治 35 年(1902 年)5 月に撮影された亀井茲常の野球のユニフォーム姿です。亀井茲常(これつね)は旧津和野藩主亀井家第 14 代当主で、18 才の時の写真です。左手にバットとボールを持ち、胸には「T・B・C」をあしらったマークが見えます。ボールには「1902」(=明治 35 年)の文字が入っており何かの記念ボールかもしれません。

当時、茲常は学習院高等科に在籍中で、野球部に所属していました。明治 34 年に来日した米国東洋艦隊の旗艦「ニューヨーク」のチームとの試合では左翼手として出場し活躍したといえます。

写真からは、明治時代後期のユニフォームのほか、帽子、スパイク、ストッキング、バットの形状などの詳細を見て取ることができます。